



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>



ニュースレター2022年 7月号

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

まもなく本格的な夏の到来となりますが暑さ対策の準備は整いましたでしょうか。

身体が暑さに対し慣れていませんと体調不良の原因となりますので徐々になじませる努力が必要です。ワクチン接種が進んだせいとかCOVIDに対しての不安もある程度和らいできた感もありますが、まだまだ注意を怠ることは出来ません。ロシアによるウクライナへの侵攻も収束に向かう気配もなく、世界中の人々がその推移を見守っています。その影響か各地での物価上昇が進み私たちの生活を脅かしています。

NY教会は本年発足40周年を迎え、今秋10月16日に記念式典の開催を予定し、その為に準備委員会を立ち上げ毎月会合を持ち様々な角度から検討、準備を行っています。

NY教会の発足が決定された1982年には、国連で第2回軍縮特別総会が開催され開祖さまは国連NGOの宗教代表として総会議場で演説に立たれ、力強く平和を訴えられました。その時に開祖さまは軍縮推進のための資金提供として100万ドルを献金され、同時にNYに平和への拠点としてPeace Centerを設立されるご決意を固められ、NY教会の発足に至りました。

その前後3回にわたる軍縮特別総会で毎回開祖さまは国連で宗教者の立場から仏教に基づく平和への思いを訴え続けられ、1984年には「平和への私の提唱」と題する英・日両言語の小冊子を発刊され多くの方に配布されました。

今月はその内容の一部をご紹介させていただき、開祖さまの平和への思いに接し因縁ある私たちNY教会の果たすべき役割を考えてみたいと思います。

この小冊子では、はじめにガンジー翁が紹介され非暴力の精神、実践を手本に宗教者による平和への行動を呼びかけ、「核の時代において人類を救う唯一の力は非暴力である」との信念を示され、「軍事力のほかに安全保障の道はない」という考えにしがみついている人たちに、「それは国際紛争を解決する手段としての効力を完全に失ってしまった。いま、私たちは全く新しい道へ踏み出さなければいけない」と訴えられました。

次に「対立を超えるための実践」と題し立正佼成会で行っている法座修行を紹介し法座での気付きの大切さから世界の問題を見たとき「世界の平和を考えると一番大切なのが、『知らず識らずに犯す罪』をどう乗り越えるかだと思います。自分の権利、自国の正義の主張に分かちがたく潜在しているエゴイズムの克服です」釈尊は、すべてが相互依存の関係によって生起している世界に絶対の善、絶対の悪というものはありません、と教えられます。それが「中道」の教えなのです。と述べられ最後に「私たち宗教者が、今人類に示していかなければならないもの・・・それはバラバラになりかけている人と人、国と国との新しい結合を可能にする道です。真の世界共同体の実現の道だと私は考えます。」とくくられています。

途中の内容を若干省略し、最終の章では「人類の意識変革のための宗教協力」として開祖さまは「なんとでも、軍事力に代わりうる安全保障の道を考えなくてはならないのです。信頼のネットワークを世界に広げていかねばなりません。膨大な軍事費を平和に暮らせるように使っていきましょう。」と呼びかけられました。さらに、「自分だけの幸福、自分だけの幸福を考えることから、羨望、疑

惑、不信、恐怖といった、ついには身を破滅に導くもろもろの悪しき感情が生まれてきます。それを仏教では『煩惱』といいます。それは強力な爆発力を持っています。釈尊は、その煩惱を抑え込むのではなく、その力を『菩提心』に変えていくことを教えられました。」と述べられ、世界の宗教者に向かって「平和を成就するための4段階の実践」を提唱されました。

神仏が願われる世界を実現させるための4段階、世界中の人々が平和に包まれて暮らせるようになる4段階が法華経では「四法成就」の教えとして示されています。として述べその説明をして下さっています。

第1は、「諸仏に護念せらるることを為る」

(神仏は常に自分ともにあって、守護してくださっているのだ、という確信をもつことです。

自分の周囲のすべての人、民族や国を異にする人々も同じ神仏の子であり、自分の兄弟であると信じきって、お互いにそのことを自覚しようと呼びかけることです)

第2は、「諸の徳本を植える」

(どんな小さなことでもいい。いま自分がいるその場所で、自分ができるところをやらせてもらおう、とこころがけていくことです。)

第3は、「正定聚に入る」

(よいことをしようと心に定めた人びとの集まりのことです。どの宗教であれ、自分が信じる宗教をもって、その仲間に加わってもらいたい、という願いです。)

第4は、「一切衆生を救うの心を発す」

(自分の幸福よりさきに相手の幸福、自国の幸福よりさきに他の国々の立場を考えようと努力することです。精いっぱい他者への献身に徹することでもあります。)

この4段階の実行こそ「人類の意識変革」を実現させていく道だと考えています。

むすびに次のように述べられています

「地球上のすべての国が平和憲法を持つようになってほしいとどんなに願っても、それは夢物語に過ぎない、と考える人が多いでしょう。ここまできてしまった世界で核兵器を廃絶することなど不可能だ、と絶望している人も少なくないでしょう。

しかし、一人ひとりが願いを持ちつづけ、それを実現するための実践を一つ一つ積み重ねていくとき、「奇跡」が起こるのです。

この開祖さまによる平和への提唱は40年近く前のものでNY教会発足直後に出されました。

まさにNY教会に対する平和への使命が託されている気がいたします。ウクライナの情勢、北朝鮮の核実験、中国と台湾の緊張など今の時代にあっても私たちの心に響くものです。

私たちがNY教会でのサンガ活動を通じ、できるところからの実践に努力したく思います。



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利